

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI /12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 常葉大学大学院初等教育高度実践研究科
コラボ研修プログラム	事業名： NITS・常葉大学教職大学院コラボ研修 徳川家康から学ぶ生き方
支援事業報告書	研修等名：【NITS・常葉大学教職大学院コラボ研修①】 「徳川家康から学ぶ生き方」
	開催日時：令和5年10月16日 午後2時～4時30分 開催場所：常葉大学静岡草薙キャンパス 常葉大学センター 〒422-8581 静岡県静岡市駿河区弥生町 6-1 参加人数：一般参加教員(9)、教職大学院生(17)、学部生(8) 大学教員(6)、その他(2) 計42名

内容：

基調講演として、静岡で最も有名な郷土史研究家である、黒澤 脩 氏による「徳川家康から学ぶ生き方」と題した講演を行った。元静岡市駿府城天守閣調査主席調査員でもある黒澤氏からは、徳川家康のパワーに関しては海外の研究者からも研究されていて、例えば、マイケル・アームストロングはその著書「アメリカ人の見た徳川家康」で、「家康は企業管理のモデルであるばかりか、財政再建、軍事外交、行政改革、金本位制と言った『エコノポリテックス』の元祖であり、その中枢をなした家康の戦略は、情報・諜報のインテリジェンスの現代版 CF 戦略である」と述べているとのことだった。家康が成功した第一の理由は、ウィリアム・アダムス(三浦按針)や服部半蔵といった家臣を使った情報収集や情報操作といった情報戦に長けていたからであり、ニューリーダーシップとして、環境・情報・時代を読む力の必要性を指摘していた。また、駿府城や駿府の歴史的重要性についても、文献等の研究をもとにした説得力のある説明をしていただき、歴史等を研究するに当たっての文献研究の重要性についてもご指導いただいた。

グループワークは、校長、教員、大学院生、学部生の混合で6グループをつくり、「講演を基に、家康の生き方で参考にしたいこと」をテーマとして意見交流を行い、ホワイトボードにまとめていった。立場の異なる参加者同士なので様々な視点から活発に多くの意見が出された。その後、各グループで出された意見等について、全体の場で発表し合い、共有化を図った。ここでは、特に家康の生き方と教師としての生き方を重ね合わせて、今後どうあるべきかといった前向きな意見が多く出された。

最後のまとめでは、講師の黒澤氏より、指導講評として参加者から出された意見についての感想等をいただいた。その中で、参加者の学ぶ姿勢のすばらしさについてもお褒めいただき、大変収穫の多い、そしてすがすがしい気持ちで終わることができた研修会となった。

成果：【事後アンケート結果】

- 1 本研修全体を通して、この研修は有意義でしたか：とても有意義(50%) 概ね有意義(43%)
- 2 講演会の内容について：大変よかった(43%)、概ねよかった(53%)
- 3 グループワークの内容について：大変よかった(61%)、概ねよかった(39%)

<自由記述より>

- ・情報と取舍選択していくことが自分の人生を深めるだけでなく、未来につながることを学びました。
- ・家康の生き方から教育に繋がるヒントをいただいた。
- ・教職というジャンルに何かしら携わっているため、皆さんの見方の方向性が一致しやすかった。他ジャンルの方も参加してもらえたら、もっと面白くなりそうだ。

アイディアや工夫したこと：※3～5つ程度の箇条書きしてください。

- ①「徳川家康の生き方」というタイムリーなテーマにより、興味深い研修会となるようにしたこと。
- ②これまで学部生の参加はほとんどなかったため、広報を学部生にも広げ、幅広い立場の者同士が学び合える場としたこと。
- ③グループの意見交流では、グループごとに大型の円形ホワイトボードを使用して意見の整理をしやすくした。また、このことにより全体の場での発表の際にも共有化が図られやすくなるようにした。

<写真・図など>



グループワークの様子



講話の様子



成果物のご紹介

